



梅の見頃はいつ頃ですか？何度となく問い合わせの電話がかかる。最近はやいと意地悪な気持ちになって、どんな咲き具合の時がよろしいか？と聞きなおしてみることがある。

ほとんどの方は満開を想定してのお尋ねだということは分かっているが、本来花を心から愛でるとなれば、花の咲き具合の好みは、百人百様でも少しもおかしくはないと思われる。

「ものの、いのちを見る」ということは、そういうことだと思う。徒然草に「花は盛りに、月は隈なきをみるものかは」とあるように、「いのち」はその時々美しく、尊いはずなのだ。見えないものを見、感じようとする心が現代人には少しずつ薄らいできているように思えてならないのだ。

人間の「いのち」も、もちろん例外ではない。けっして若さや、生産性だけを物差しに、人間の価値やその美しさをはかってはならないものだ。木の生きた歴史が木肌や花の色に表れてくるように、人間には品格となって心と体に宿るものだ。体にできたシミも皺も伊達ではない。生きてきた確かな歴史が刻み込まれているはずなのだから、本当の美しさを見ることが、そのものの背景にも心を致し、敬意をもって接するというではないだろうか。

総代となつて十二年。「縁に生きる。」

R M

私たち夫婦は今年八十一才を迎えようとしています。真宗門徒の一人として、総代を引き受けさせていただき、すでに十二年の月日が流れてしまいました。その間、本堂修復工事、「遠念法要と大行事を経験し、多くの仏縁をいただくことができました。多くの門徒さんとの出会いがあり、力強いご協力をいただけたことが何よりうれしいことでありました。

以来、毎月の光受寺通信等を通して学びごとや、毎月の学習会での皆さんのお話合いや、住職、若院の話で学ばされることも多く、毎月皆さんに会えることを夫婦で楽しみにしています。そして、独りよがりの閉じこもりがちな思いから開放されるよい機会にもなっています。もっと多くの門徒の皆さん方との触れ合いができればと思います。

さて、いよいよ私も 生まれて喜ばれ、老いて邪魔にされ、病んで嫌がられ、死んで忘れられる「その時が近くなつたように思われます。義理人情の希薄さが嘆かれる今日においては、人の世話になりながらも、人の世話をすることを嫌う傾向は益々強くなってきております。人間の定めとは言いながら、人間の「いのち」とは何なのかを、深く考えさせられる今日この頃です。

人生は人と人との助け合い

K O

人生振り返るといろいろなきことがありました。

わたしは二十一年生まれで今年七十二歳になります。十八歳で大型免許を取り運送会社に入り、大型トラックの運転手として、北は青森の弘前までリンゴを積みに行き、南は九州の鹿児島まで引越しの荷物を積んでいったことがあります。二十歳の時、静岡の袋井市で追突事故を起こし三日間意識不明の重体になりましたが、掛川市民病院の先生のお蔭で一か月の入院で済ませることができました。その後一か月で職場復帰し、三十代後半にはトラックの運転は疲れがひどいので退職し、タクシードライバーに転職しました。

五十二才の一月三日、タクシー強盗に襲われ、スポンのベルトで首を絞められたこともありましたが、運よく私服の警察官が通りかかり、助けてもらうことができました。現在は六十六歳で退職し、ウォーキングと友達との喫茶店、朝夕お仏壇のお参りを口課としています。一生に二度も命を失いかけた私です。多くの人たちに助けられて今を生きていると思つて、感謝の思いでいっぱいになります。これからの人生は自分ができる限り世間のお役に立てるような生き方を心がけていきたいと思っています。

降り注ぐ春の香り しだれ梅、墨俣で満開
2017年03月08日 08:14 (岐阜新聞掲載)



3月11日(土)
ライトアップ



満開時。3月10日

ご案内

五月の学習会…五月十三日(土)

午後七時より八時半
テーマ…私を確かめる。



お天気にも恵まれ、梅も満開でした。多くのご参詣をいただきありがたい一日でありました。
今回は午後の法話を若院の妻でもあるMが勤めてくれました。
観経の内容を自分の体験を織り込みながら、分かりやすく話してくれたように思っております。

まだ教師取り立てで僧侶としては駆け出しですが、真つ新たな心に注ぎ込まれていった仏法の学びの体験が、皆様には新鮮に受け止めていただけたのではないかと思っています。

三月二十日永代経勤まる。

心の持ち方が長寿に関わる？

◎一世紀を生きる人 センテナリアン

NHKスヘシャルで「あなたもなれる健康長寿」という番組があり、興味深く鑑賞しました。
今や人間は、百年以上を生きる時代を迎えていることを実感しました。日本でも114才で健在な 後藤はつこのさんが紹介されています。医学的な研究が進み、日常の心がけで、だれでも長寿を実現できることが、明らかにされていきました。

特に印象に残ったのは、心の持ち方が長寿に大きく関わっていることでした。自分勝手ではなく、まわりの人に尽くそうとする心遣いが、老化を抑える大きな要因になっているとの事でした。

私も仏法につながる者として、いよいよ感謝報恩の心遣いを深める意味を感じた次第です。 ちり

お隣やまぐら1000部。

多くの皆様のご協力のもと、積み重ねきた結果がここに あることをしみじみと実感しております。
光受寺の歴史の通過点を物語る資料としても大きな意味を持つものではないかと、感じています。
今後とも皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

